

4. ニッケルの国際市況と需給動向 (2007年11月まで)

希少金属備蓄部

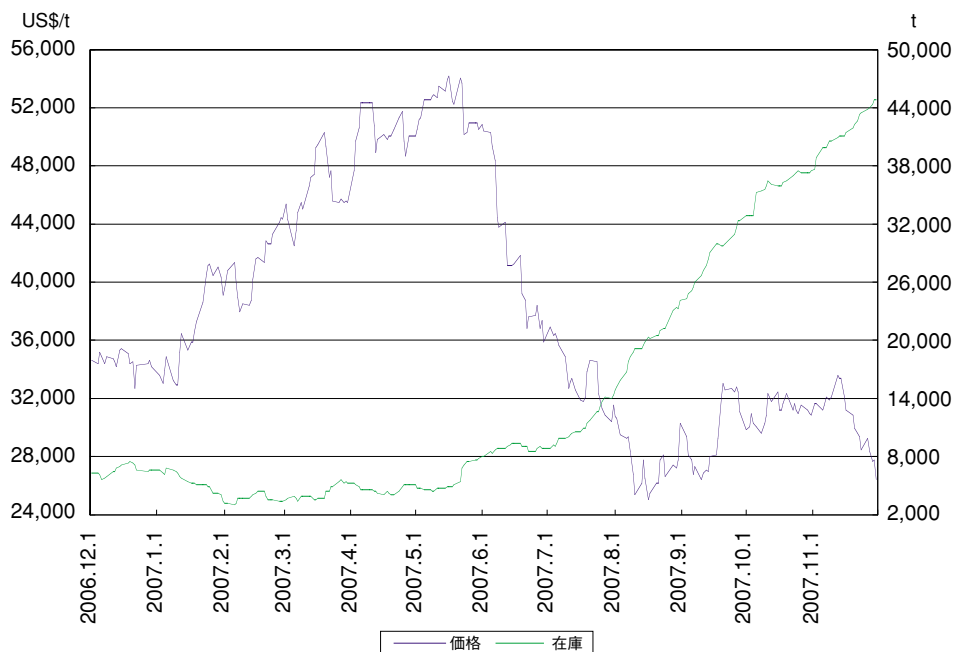
1. ニッケルの国際価格は、11月上旬まで30,000US\$～32,000US\$台で推移。11月中旬より、供給過剰や在庫増加などから下落傾向となり、11月20日には30,000US\$を割り込み、11月末日現在26,410US\$。
2. 2007年1～10月の需給バランスは、88.6千tの供給過剰。LME在庫量は、引き続き増加傾向となっており、11月末日時点で44,334t。
3. 国際ニッケル研究会によると、2007年の世界のニッケル需給は、約13.5万tの供給過剰と予測。ステンレス需要の回復は未だ見られず、本格回復は2008年以降との見方が強い。

1. 国際価格 (2007年10～11月)

ニッケルの国際価格は、11月上旬まで30,000US\$～32,000US\$台で推移。11月中旬、需要増加予想などから33,000US\$台をつけたが、足元の供給過剰や在庫増加などから下落傾向となり、11月20日には30,000US\$を割り込んだ。その後も下げが続き、11月末日現在26,410US\$。

9月中旬より、中国需要の回復予想などから32,000US\$台へと上伸したニッケル国際価格は、10月はじめ一時29,000US\$台へと反落したものの、11月上旬まで30,000US\$～32,000US\$台で推移。11月中旬、需要の増加予想などを材料に33,000US\$台をつけたが、足元需給は依然として供給過剰であることや在庫の増加などから下落傾向となり、11月20日には30,000US\$を割り込んだ。その後も、ステンレス需要

の弱まりや在庫の更なる増加を材料に下げが続き、11月末日現在26,410US\$となっている。LMEは、投機筋による行き過ぎた相場を修正するため、ニッケルのみを対象として2007年6月から実施してきたレンジング規制について、相場が正常化したことから10月5日に規制を撤廃したが、在庫増加と実需を反映してか、大幅な価格の上げ材料とはならなかった(図4-1)。



ニッケル	2006年	2007年										
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
LME在庫 (t)	6,594	3,366	3,342	5,232	4,980	7,914	8,856	14,412	24,324	32,934	37,662	44,334
平均価格 (US\$/t)	34,570	36,811	41,184	46,325	50,267	52,179	41,719	33,426	27,652	29,538	31,005	30,610

図4-1 ニッケル価格と在庫の推移

出典：国際ニッケル研究会

2. 需給 (2007年1～10月)

- ① 2007年1～10月の鉱石生産は11.2% (135.3千t) の増。一次地金生産は7.1% (79.2千t) の増。消費は4.6% (53.0千t) の減。
- ② 2007年1～10月の需給バランスは88.6千tの供給過剰。
- ③ LME在庫は、5月下旬より増加傾向となり、11月末日時点で44,334t。

〈需要〉

2007年1～10月のニッケル消費は1,109.2千t (金属純分、以下同様) で、前年同期比4.6% (53.0千t) の減となった。消費量第1位の中国は31.1% (64.0千t) の大幅増であったが、第2位日本は8.6% (13.1千t) の減、第3位米国は6.4% (7.8千t) の減、第4位ドイツは6.9% (6.1千t) の減、第5位台湾は22.2% (7.4千t) の減となった。

〈供給〉

2007年1～10月のニッケル鉱石生産は1,345.6千t で、前年同期比11.2% (135.3千t) の増となった。最大生産国のロシアは0.7% (1.7千t) の微増、第2位カナダは13.1% (24.5千t) の増、第3位インドネシアは31.8% (38.2千t) の大幅増、第4位豪州は13.9% (19.0

千t) の増、第5位のニューカレドニアは17.2% (15.1千t) の増であった。2007年1～10月の一次ニッケル地金生産は1,197.8千tで、前年同期比7.1% (79.2千t) の増となった。最大生産国ロシアは3.9% (5.3千t) の減、第5位豪州は1.0% (0.9千t) の減であったが、第2位中国は65.5% (70.2千t) の大幅増、第3位日本は8.6% (10.7千t) の増、第4位カナダは5.3% (6.6千t) の増であった。

〈需給バランス〉

2007年1～10月の需給バランスは、88.6千tの供給過剰となっている。

ニッケルの金属取引所在庫は、2007年5月下旬より増加傾向、11月上旬には40,000t台となり、末日時点で44,334t (表4-1、4-2)。

表4-1 ニッケルの需給状況

単位:千t、金属純分

ニッケル	2006年												1～12月計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
鉱山生産量	117.4	114.5	120.3	126.2	122.3	119.8	116.8	122.9	120.3	129.7	128.6	129.3	1,468.2
一次地金生産量	115.6	109.1	112.4	112.4	113.5	108.2	102.8	110.3	115.1	119.3	118.6	122.0	1,359.2
消費量	111.5	109.3	113.6	116.3	117.2	117.7	117.9	119.8	117.4	121.4	119.9	119.1	1,401.1
需給バランス	4.1	-0.2	-1.2	-3.9	-3.7	-9.5	-15.1	-9.5	-2.3	-2.1	-1.3	2.9	-41.9
ニッケル	2007年											前年同期比 (%)	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	1～10月計		
鉱山生産量	130.6	128.5	141.9	136.2	141.4	136.0	131.0	135.7	133.5	130.8	1,345.6	11.2	
一次地金生産量	123.6	113.1	123.6	121.6	124.2	121.2	120.8	119.1	114.7	115.9	1,197.8	7.1	
消費量	122.1	117.4	122.3	114.5	111.7	114.5	99.5	96.0	104.1	107.1	1,109.2	-4.6	
需給バランス	1.5	-4.3	1.3	7.1	12.5	6.7	21.3	23.1	10.6	8.8	88.6	—	

出典:国際ニッケル研究会

表4-2 LME国別ニッケル在庫の推移 (2006年12月～2007年11月)

単位:t

国名	2006年	2007年										
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
ベルギー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ドイツ	114	18	18	—	—	—	—	—	—	—	—	1,380
イタリア	—	—	36	72	60	108	66	48	—	—	—	—
韓国	2,364	2,070	1,776	2,004	1,890	2,928	3,414	3,432	3,366	2,190	1,848	1,098
オランダ	2,826	204	216	1,986	1,884	3,474	4,080	8,100	13,500	22,416	24,342	27,096
シンガポール	324	546	750	804	726	468	576	528	1,272	1,878	2,208	3,030
スウェーデン	294	90	—	—	330	408	120	1,704	3,276	3,318	3,540	3,660
英国	12	—	—	—	—	24	—	—	2,100	2,052	4,326	6,648
米国	660	438	546	366	90	504	600	600	810	1,080	1,398	1,422
合計	6,594	3,366	3,342	5,232	3,342	7,914	8,856	14,412	24,324	32,934	37,662	44,334

出典:国際ニッケル研究会

3. 今後の需給見通し

国際ニッケル研究会によると、2007年の一次ニッケル地金生産は7.9%増の147.0万t、一方、ニッケル消費は4.6%減の133.5万tとしており、需給バランスは約13.5万tの供給過剰と予測している。

業界紙、メディア等によると、供給については、ロシア、中国を中心とした供給力増強などにより増産傾向であり、2008年以降は大型新規案件の立ち上がりも見込まれ、今後も増加傾向が継続する見込みである。一方、需要については、航空機用スーパーアロイ用途などは好調であるものの、ステンレス需要の回復は未だ見られず、需要の伸びは鈍化している。ステンレス鋼のニッケル離れも進展していることから、ステンレス需要の本格回復は2008年以降との見方が強く、ニッケル需給は当面、供給過剰の状態が続くものと見られている。

ニッケル価格については、在庫の増加傾向の継続、需要の回復が遅れていることなどから、下落基調が強まっている。